

「日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)」は、河川再生に関わる事例・経験・活動・人材等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい水辺再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に2006年11月に設立されました。また、日中韓を中心に活動する「アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	7
➤ JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ.....	8
➤ 会議・イベント案内.....	9
➤ 冊子・ビデオ等の紹介.....	9
➤ 会員募集中.....	10

巻頭書記

暑さのピークが過ぎ去り、秋の足音を感じる季節となりました。JRRN では、学びの秋に相応しく、8月末には第8回河川環境ミニ講座として日韓の魚道最新事情を学び、また現在は11月に開催するARRN/JRRN 国際フォーラムに向けた準備を鋭意進めております。

第51号では、報告記事として、河川技術シンポジウム参加や台湾視察団との交流会、また今後のJRRN 主

催行事の開催方針やARRN 委員会活動等を紹介しています。

また水辺からのフォトメッセージは久々に海外編を、更に国内外から頂いた河川再生に関わる行事情報等を会員提供情報としてご紹介しております。

引き続き、会員皆様からのJRRN 諸活動に対するご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

JRRN 事務局からのお知らせ(1)

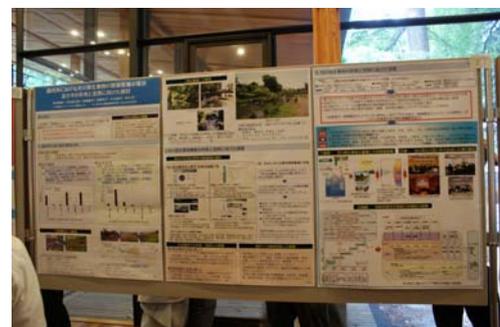
『2011年度・河川技術に関するシンポジウム』参加報告

2011年7月23日(土)～24日(日)に「新しい河川整備・管理の理念とそれを支援する河川技術」をテーマとした「2011年度・河川技術に関するシンポジウム」が開催され、「国内外における河川再生事例の情報整備の現状及びその共有と活用に向けた検討」と題して、JRRNが現在取り組む河川再生事例整備活動を中心にJRRN事務局より発表させて頂きました。



ポスターによる発表を通じては、JRRN会員を含むシンポジウム参加者と様々な意見を交換し、今後のJRRNの活動に向けた貴重なご意見を頂くことができました。

これらご意見を今後の取組みに反映し、会員皆様により役立つ活動を目指してまいりたいと思います。



当日の発表論文やポスターは以下よりご覧頂けます。

<http://www.a-rr.net/jp/info/letter/activity/2820.html>

(JRRN 事務局 和田彰)

JRRN 事務局からのお知らせ(2)

台湾社區大学全国促進会視察団との技術交流報告(平成 23 年 8 月 26 日開催)

2011年8月26日(金)、台湾から社區大学全国促進会視察団(約20名)が来日、JRRN事務局(リバーフロント整備センター)を訪問し、市民による川づくりや合意形成に関わる話題を中心に技術交流を行いました。

<交流プログラム>

- 台湾視察団より「社區大学全国促進会視察団と構成メンバー」の紹介
- JRRN事務局より「(財)リバーフロント整備センター」及び「ARRN/JRRN」の概要説明
- JRRN事務局より「川づくりと合意形成」について概要説明
- 台湾視察団より「高雄市愛河再生に関わる市民活動」及び「台湾における官民連携」概要説明
- 質疑応答及び意見交換

台湾視察団一行は、台湾で川づくりやまちづくりに携わる地域活動団体、市民ネットワーク、民間企業、公益法人等で構成され、日本における官民連携の川づくりや市民活動の状況を学ぶことを目的に、昨年を引き続き、実践大学の李宜欣先生先導のもと来日されました(「Newsletter No.39」参照)。



台湾には、民間が促進する教育及び社会改革運動の一環として、「知識の開放」と「国民社会の促進」を目的とした社區大学(社區=地域(コミュニティ))が存在します。社區大学全国促進会(1999年9月設立)では、それぞれの社區大学で培われた経験を集約、多様な課題の解決策を共有し、将来の社區大学の発展に向けた長期計画を策定しています。長期目標として、「流域生命力回復」を、短期目標として、「持続的流域交流(景観形成)」、「流域生態・文化再発見(流域学習)」、「河川教育・パートナーシップ(川の日イベント)」、「流域外交流」を掲げ、多様な取り組みを進めています。

高雄市愛河再生

台湾の南西に位置する愛河(あいが)は、台湾第2の都市、高雄市を流れる全長12km程度の都市河川で、かつて日本統治時代に広大な自然豊かな河川に改修された経緯があります。その後、1960年代の工業化に伴い水環境は大きく悪化しますが、1980年代より政府、民間、市民が河川再生に立ち上がり、現在、愛河は見事に蘇りました。



日本統治時代



1960年代(高雄市の工業化)



1970年代
(水環境の悪化)



現在(観光地としての愛河)

出典:台湾視察団資料

愛河の河川再生は現在もお継続的に進められており、当面の課題「景観の更なる向上（コンクリートが目立たない川へ）」、「水源（水量・水質）の確保」に対して、いくつかの取り組み事例が示されました。



コンクリート護岸の多自然化（石積み）



まちづくりと一体となった水路再生



洪水防御と水質浄化を狙った湿地公園の造成

< 出典：台湾視察団資料 >

近年の台湾では、「総合治水」や「合意形成」が重要視されるようになってきており、意見交換ではそれにちなんで、ダム事業における地域住民との合意形成、地域毎の洪水防御策（計画規模の違いなど）、流域内で行政区分が異なる事業の横断的連携、上下流地域間の合意形成などについて、活発な議論が行われました。

技術交流は当初の予定時間を越えて3時間半に及び、当視察団の川づくりに対する情熱、近江八幡の八幡堀や京都府河原町の水路などをモデルとして河川整備を実施しているなど、日本を訪れ感銘を受けたものを積極的に取り込んでいく姿勢が感じられました。また、前回そして今回も視察団メンバーの多くは女性であり、その議論の迫りに我々事務局は圧倒されました。それが、台湾の川やまちづくりの活力になっており、技術的な話以外でも日本が学ばなければいけないことはあると感じました。



台湾視察団との記念撮影

今回訪れた台湾視察団の各団体の詳細については、以下のサイト（中国語）を参考にしてください。

- 社區大學全国促進會
<http://www.napcu.org.tw/website/>
- 中華民國社區營造學會
<http://www.peopo.org/cesroc>
- 台湾千里步道協會
<http://www.tmitrail.org.tw/>
- 水患治理監督聯盟
<http://waterwatch.ngo.org.tw/>
- 台南市社區大學
<http://163.26.52.246/>
- 中山大學公共事務管理研究所
<http://pam.nsysu.edu.tw/bin/home.php>
- 美濃愛鄉協進會
<http://sites.google.com/site/mpampa1994/>
- 高雄市綠色協會
<http://www.wretch.cc/blog/tgango>
- 高雄市文化愛河協會
<http://sub.khcc.gov.tw/bike/Yencheng/index.htm>
- 王立人建築師
サイトなし
- 盧友義建築師
サイトなし
- 培根規劃設計有限公司
サイトなし
- 台湾藍色東港溪保育協會
<http://web.actkr.org.tw/>
- 屏東縣綠元氣產業交流促進會
<http://sixstar.cca.gov.tw/blog/greenpower>

(JRRN 事務局 後藤勝洋)

JRRN 事務局からのお知らせ(3)

今後の JRRN 主催行事の開催方針のご紹介

JRRNでは、これまでの「河川環境ミニ講座」を通じ、会員交流と河川再生に関わる知見習得の機会づくりを目指すとともに、海外からの来日視察団との「技術交流行事」を会員限定公開行事としながら、JRRN会員と海外関係者との交流機会を増やすことを試行的に取り組んで参りました。(以下の開催実績表参照)

本年2月に実施させて頂きましたJRRN諸活動に関するアンケート結果では、会員皆様より貴重なご意見を

多数頂き、これらご意見を踏まえ、JRRN事務局内で今後の主催行事の開催方針について協議を重ねてきました。

今後は、会員皆様が保有する経験・知見を活用しながら、会員が主役となる交流機会を創造することを目指し、次頁でご紹介する実施方針に基づき諸行事を開催していきたいと思っておりますので、諸行事への皆様の多数の参加をお待ちしております。

過去の「JRRN河川環境ミニ講座」及び「JRRN技術交流会」の開催実績

No.	開催年月日	演題(講師)	出席
1	2008年7月18日	環境流況～流水の正常な機能の維持に向けて(大町利勝)	22
2	2008年12月10日	韓国安養川等の都市河川再生(李参熙)	10
3	2009年5月13日	環境流量からみえるアジアの風土性(白川直樹)	24
4	2010年2月23日	川づくりと住民参画の目的、河川環境と治水、防災の接点(山道省三)	15
5	2010年5月11日	流域連携による河川再生:イギリス・マージ川流域キャンペーン(Walter Menzies)	20
6	2010年9月8日	中国の挑戦: 気候変動下の洪水、干ばつ、水質汚染に向けて(徐宗学)	12
7	2010年12月21日	台湾の河川事情: 台風被災からの教訓と治水対策(莊曜成)	12
2～3回/年			国内3、海外4
			115

No.	開催年月日	交流相手	会員公開行事
1	2007年11月29日	韓国・東豆川市関係者	-
2	2007年12月7日	韓国・河川表示や情報提供に関する調査団	-
3	2008年1月9日	PEMSEA(国連東アジア海域環境管理局)	-
4	2008年1月9日	NARBO(アジア河川流域管理機関ネット)	-
5	2008年5月28日	韓国・水生態復元事業団	-
6	2008年6月上旬	韓国・河川協会の海外視察団	-
7	2008年6月26日	英国・リーズ大学環境学部研究員ウルリカ氏	-
8	2008年7月15日	韓国・健やかな道林川をつくる市民の会	-
9	2008年11月25日	台湾・經濟部水利署関係者	-
10	2009年2月20日	香港政府関係者	-
11	2009年5月20日	JICA 国別研修(パキスタン)	-
12	2009年6月上旬	韓国・河川協会の海外視察団	-
13	2009年7月8日	台湾・經濟部水利署	○
14	2009年11月13日	中国・湖北省水利庁視察団	○
15	2009年11月30日	中国・大連理工大学	○
16	2009年12月21日	韓国・建設技術研究院 KICT	-
17	2010年6月11日	中国・遼寧省大連市水務局	○
18	2010年7月6日	韓国・未来資源研究院	○
19	2010年8月16日	台湾・川と街づくり視察団	-
20	2010年9月3日	英国・リーズ大学地理学科 Paul Waley 教授	○
21	2010年10月25日	台湾・屏東県政府視察団	-
22	2011年1月11日	中国・湖北省水利庁視察団	○
23	2011年8月26日	台湾・市民大学全国促進会	-
平均6回/年			韓国8、中国5、台湾5、その他5
			7回

---- 《 改善の視点 》 ----

【1】 再生事例整備や技術指針構築等の JRRN 基幹活動の有用情報獲得の手段とする

優れた再生事例の担い手を講師に招き、公開情報からは入手が難しい生の情報（苦勞、失敗、コスト、資金源、合意形成、評価等）を交換する機会を提供する。

【2】 JRRN 会員が有する専門性・経験の披露及び交換の場とする

JRRN 会員が講師や案内役を担い、会員が保有する河川再生に関わる専門知識や現場での経験を会員間で共有する機会を提供する。

【3】 海外の情報・人とつながる機会とする

書籍やネット情報では不十分な、河川再生に関わる海外の最新情報（取組み、技術、課題等）に触れる機会、さらに海外専門家や組織と繋がる縁を提供する。

【4】 気軽に参加しやすい行事とする

従来の平日昼間や東京限定開催によるデメリットを少しでも解消するため、平日夜の開催や、会員限定動画配信など、行事へのアクセス性を高める工夫をする。

【5】 行事開催成果を汎用性のある知的財産として蓄積を図る

講演録、関連資料、動画等、各行事の成果を他での活用に資する知的財産として加工し、JRRN ホームページ内で蓄積を図る。

【6】 JRRN 団体会員主催行事との連携を通じて会員交流の機会を増やす

全国で開催されている JRRN 団体会員主催による素晴らしい行事を確実に JRRN 会員へ普及し、間接的な JRRN 会員交流の機会創造を図る。

---- 《 実施方針（案） 》 ----

方針
1

「河川環境ミニ講座」及び「海外技術交流会」の開催

- 「河川環境ミニ講座」は、これまでの JRRN 会員アンケート結果等を踏まえ、他団体主催行事と差別化を図ったテーマを設定し、①JRRN 会員を講師とした講演会、②非会員の専門家を講師とした講演会、③海外講師による海外事情共有を目的とした講演会 のいずれかで開催する。1ヶ月前を目処に広報するとともに、①②は、時間帯を従来の昼間から平日夜（18:00 以降）に開催とする。
- ①では、JRRN 会員から講師を募集し、テーマや時期を JRRN 事務局と調整の上で企画する。なお、市民団体・河川管理者・コンサルタント・研究者等、様々な立場からの講演となる工夫をする。
- ②では、非会員の有識者や著名な河川再生の担い手から講師を選定し、河川再生事例整備等の JRRN 諸活動へ行事成果を反映できるプログラムとする。
- ③では、別目的で来日する講師への依頼を基本に、事前準備状況や来日目的等に応じ「河川環境ミニ講座」（講演会形式）もしくは「海外技術交流会」（小規模討議形式）での開催を事務局で判断し、前者は遅くとも1ヶ月前から広報を目指し、後者は JRRN 会員限定公開行事として開催する。

方針
2

JRRN 主催行事及び関連行事の成果の蓄積・普及・活用

- 「河川環境ミニ講座」は講演録として、「海外技術交流会」は議事要旨として行事成果を取りまとめ、開催後1カ月以内を目標に JRRN ホームページを通じ公開し、JRRN 諸活動で活用する。
- 講師（もしくは交流相手団体）の許可を得た場合に限り、行事の様子をビデオ録画し、動画として限定公開する。（パスワード設定等により会員のみがアクセスできる状態を維持する）
- JRRN 団体会員が主催する各種行事について、主催者と密に情報共有を図り、各行事の事前広報や成果普及に JRRN が貢献する。また JRRN 会員に確実にその情報を届けることを通じ、間接的に JRRN 会員同士が交流する機会の増加を図る。

JRRN 事務局からのお知らせ(4)

ARRN 委員会活動報告（情報委員会・技術委員会）

ARRN 情報委員会

本年 11 月に開催する ARRN 運営会議及び国際フォーラムに先駆けて、早期審議を要する内容について情報委員会で協議しています。本年から日本（JRRN）、中国（CRRN）、韓国（KRRN）それぞれの委員による e-mail 形式による委員会協議を試行しております。

現在実施中の情報委員会の議題は以下のとおりです。

① ARRN 国際フォーラム企画の最終調整について

今年度の国際フォーラムでは「減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える（Urban River Restoration at the confluence of Disaster Mitigation and Environment Preservation）」をテーマとして開催します。「減災」、「環境保全」について、国際フォーラムをより有意義な協議の場とするため、各国の河川事情を踏まえつつ、各国の事例や講演者等の講演内容について相互に意見交換を行い最終企画の確定を実施中です。

② 運営会議への参加者について

運営会議の今後のルールについて、どの立場の方が運営会議に参加すべきかをコスト面、参加の有意性等から協議し、財政的にも運営上も効率的な体制のブラッシュアップを図っています。

③ 第 6 回世界水フォーラムへの参画について

来年 3 月にフランス・マルセイユで開催される第 6 回世界水フォーラムへの参加について、費用対効果の観点から参加の必要性について協議し、ARRN の拡大と活動成果の普及を目的としたより効果的な国際会議等のイベント参加の方策について協議を行っております。

ARRN 技術委員会

技術委員会は、ARRN 活動の主軸の一つである「アジアに適応した河川環境再生の手引き」の作成・更新・普及等について協議を行う委員会です。11 月に開催する ARRN 国際フォーラムでの『手引き ver.2』配布に向けて、各 RRN 技術委員間での email による協議を行いながら、現在更新作業を進めています（詳細は、「Newsletter No.50」参照）。手引き ver.2 の目次案は以下を想定しています。

1. はじめに ※Ver.2 として追加・修正する項目を赤字で特出して表記
 2. 川の本質を知るために大切な視点
 3. 河川環境を再生する際の留意点
 - (1) 川の自然・歴史・文化に配慮した河川環境の課題を明らかにし、再生目標を設定する
 - (a) 水環境（水量・水質）に関する課題
 - (b) 河川空間の親水性に関する課題
 - (c) 川の自然環境に関する課題
 4. 良好な河川環境を再生するための方策
 - (5) 健全な水質と水量の確保
 - (a) 中国における対策
 - (b) 韓国における対策
 - (c) 日本における対策
 - (6) 賑わいのある水辺空間・親水空間の形成
 - (a) 中国における対策
 - (b) 韓国における対策
 - (c) 日本における対策
 - (7) 川が本来持つ自然環境の再生
 - (a) 中国における対策
 - (b) 韓国における対策
 - (c) 日本における対策
 5. 河川環境を再生した取り組み
 - (1) 中国における河川再生事例
 - (2) 韓国における河川再生事例
 - (3) 日本における河川再生事例
 - (4) 欧米における河川再生事例
- 付録 1. 河川環境再生のための方策体系表（案） 付録 2 河川再生情報源一覧

水辺からのメッセージ No.28

国土文化研究所 特任研究員 岡村幸二 (JRRN 会員)

湾曲した川がつくる歴史都市の風景： 世界文化遺産都市に新たな活気をもたらすアウトドアスポーツの賑わい



撮影：2011年7月（チェコ共和国/チェスキー・クルムロフ）

◆まちの歴史的景観を再評価

チェスキー・クルムロフは、第二次大戦後、荒廃していた歴史的建造物と民族間の軋轢を乗り越え、1989年のビロード革命以降、町の歴史的景観が再評価されるに至り、建造物の修復が急速に進みました。1992年ユネスコの世界文化遺産に登録され、現在ではドイツ・オーストリアでは人気の観光地となっています。クルムコフ城や聖ヴィトゥス教会などの魅力ある建造物のほか、ヴルタヴァ川の水面を活かしたアウトドアスポーツの賑やかな風景が見られます。

※国土文化研究所は、株式会社建設技術研究所のシンクタンク組織です。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ(2011年7月～8月提供分)

【JRRN 会員からの提供情報】

■第 19 回 リバーフロント整備センター研究所報告会 (9/2 開催)

研究成果報告会をご案内致します。

- ・日時 : 2011年9月2日(金)
13:00-17:30
- ・会場 : 科学技術館サイエンスホール
- ・主催 : (財)リバーフロント整備センター

※詳細は URL 参照:

http://www.rfc.or.jp/gyoji/gyoji_top.html

【JRRN 会員からの提供情報】

■海と人との持続可能な共存を求めて (9/4 開催)

「特定非営利活動法人遠野エコネット」様より御提供頂いたイベント情報です。

- ・日時 : 2011年9月4日(日)
13:00-17:30
- ・会場 : あえりあ遠野交流ホール
- ・主催 : 三陸エコビジョンフォーラム実行委員会

※詳細は URL 参照:

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2852.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■隅田川歴史・文化再発見ウォーキング (9/10 開催)

「隅田川市民交流実行委員会」様より御提供頂いたイベント情報です。

- ・日時 : 平成 23 年 9 月 10 日(土)
- ・場所 : 隅田川起点 (岩淵水門) から勝鬃橋までの約 28 km (もしくは中間ゴールの 17km)
- ・主催 : 隅田川市民交流実行委員会

※詳細は URL 参照:

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2834.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■「河川文化を語る会」

JRRN 団体会員である公益社団法人日本河川協会から「河川文化を語る会」のご案内です。

【第 159 回】

- ◆テーマ:「2011 年の大津波による海岸災害と被災を免れた神社」
- ◆講師 : 宇多高明氏 (財団法人土木研究センター 常務理事・なぎさ総合研究室長)
- ◆日時 : 2011年9月6日(火) 18:00~20:00
- ◆場所 : 厚生会館 (全国土木建築健保)
<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2811.html>

【第 160 回】

- ◆テーマ:『『方丈記』に見る災害と川の風景 - 川を見つめる視線 -』
- ◆講師 : 浅見和彦氏 (成蹊大学文学部教授)
- ◆日時 : 2011年10月20日(木) 18:00~20:00
- ◆場所 : 弘済会館 (東京都千代田区)
<http://www.a-rr.net/jp/exchange/event/2826.html>

【JRRN 会員からの提供情報】

■ベトナム・タムコック遊覧写真紹介

ベトナム在住の会員 DM さんより、ベトナム・タムコックの水辺写真を提供頂きました。魅力的な 10 枚の写真がご覧になれます。



◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2865.html>

【海外からの情報提供】

■「第 18 回 IAHR アジア太平洋地域国際会議 (IAHR-APD2012)」案内

2012 年 8 月に韓国・済州島で開催される IAHR-APD 2012 のご案内を現地事務局より頂きました。

今回は「Hydro-Environmental Engineering, toward Harmony between Human and Nature (人と自然の共存に向けた水圏環境工学)」を主テーマで開催され、環境流量や河川再生等のセッションも充実しております。

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2836.html>

【海外からの情報提供】

■英国河川再生センター『第 13 回年次講演会』論文募集紹介

2012 年 4 月 19 日に開催される英国河川再生センター(RRC)主催「第 13 回年次講演会」の発表論文募集案内を RRC 事務局より頂きました。

「Delivering River Restoration: Recipes for Success」(河川再生成功のレシピの普及)をテーマに、英国における最新の河川再生の取組が交換される予定です。

◆詳細は以下参照

<http://www.a-rr.net/jp/exchange/news/2842.html>

会議・イベント案内（2011年9月以降）

(JRRN/ARRN 主催・共催の会議・イベント)

■ARRN「第8回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム」は2011年11月11日（金）に開催します！

本年度で8回目を迎えるARRN国際フォーラムは、2011年11月11日（金）に開催致します。プログラム詳細のご案内及び参加申込開始は9月前半を予定しております。

○開催日： 2011年11月11日（金）午後 ○開催場所： 東京大学農学部弥生講堂

なお、本年の国際フォーラムは、河川整備基金の助成を受けて開催します。

※詳しくはこちら→ http://www.a-rr.net/jp/info/letter/docs/Newsletter-vol50_201108.pdf

(その他の河川再生・河川環境に関する主なイベント)

■第19回 リバーフロント整備センター研究所報告会

○日時：2011年9月2日（金） 13:00-17:30

(前頁参照)

■海と人との持続可能な共存を求めて

○日時：2011年9月4日（日） 13:00-17:30

(前頁参照)

■第159回 河川文化を語る会

○日時：2011年9月6日（火） 18:00～20:00

(前頁参照)

■プロジェクトWET エducator養成講座 in 浜名湖

○日時：2011年9月10日（土）～11日（日）

○主催：PW しずおかネットワーク

<http://www.a-rr.net/jp/event/02/2744.html>

■隅田川歴史・文化再発見ウォーキング

○日時：2011年9月10日（土）

(前頁参照)

■応用生態工学会 第15回金沢大会

○日時：2011年9月14日（水）～17日（土）

○主催：応用生態工学会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2736.html>

■2011年度川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域

○日時：2011年9月17日（土）～19日（月）

○主催：川に学ぶ体験活動全国大会 in 鶴見川流域実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2574.html>

■第4回 いい川・いい川づくりワークショップ

○日時：2011年9月24日（土）～25日（日）

○主催：いい川・いい川づくり実行委員会

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2825.html>

■第5回洪水管理国際会議 ICFM5

○日時：2011年9月27日（火）～29日（木）

○主催：ICHARM

<http://www.a-rr.net/jp/event/03/2816.html>

■第160回 河川文化を語る会

○日時：2011年10月20日（木） 18:00～20:00

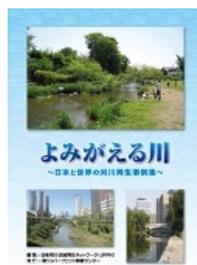
(前頁参照)

冊子・ビデオ等の紹介

■よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～

(2011.4 発刊)

- ・編集：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行：(財)リバーフロント整備センター
- ・価格：無料



※本冊子の入手方法

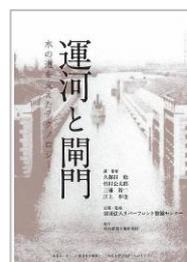
本事例集をご希望の方は、JRRN事務局までご連絡ください。なお、JRRN 会員限定サービスとさせていただきます、送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。非会員の方は、JRRN 会員登録後にお申込下さい。

info@a-rr.net / 電話：03-6228-3862

■運河と閘門 水の道を支えたテクノロジー

(2011.3 発刊)

- ・編・著者：久保田稔、竹村公太郎、三浦裕二、江上和也
- ・発行：日刊建設工業新聞社
- ・価格：無料



本書は、運河・閘門の基礎知識を紹介するとともに、北海道から九州ま

本冊子をご希望される方は、「(財)リバーフロント整備センター企画グループ」までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。

電話：03-6228-3862

会員募集中

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川環境の整備・改善に携わるすべての方々のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

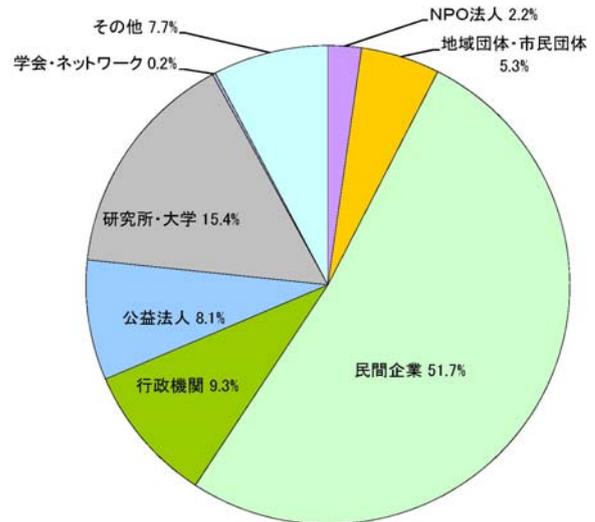
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川環境に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週に1回～2回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/info/member.html>



2011年8月31日時点の個人会員構成

(個人会員数：512名、団体会員数：40団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

JRRNが提供するサービス		JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員 (一般の方)
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力 ^{※1}	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ^{※2}	◎	◎	◎
3	ニュースメール(週2回)の配信 ^{※3}	◎	◎	×
4	Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ^{※3}	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ^{※4}	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ^{※5}	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載 ^{※6}	◎	△ ^{※7}	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ^{※8}	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ^{※9}	◎	×	×

【発行・問合せ先】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局

財団法人リバーフロント整備センター 内

〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net URL: <http://www.a-rr.net/jp/>

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、(財)リバーフロント整備センターと(株)建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

